

## 仙台市・長春市友好都市締結30周年記念事業

仙台市市民局交流政策課

本市には、現在7つの国際姉妹・友好都市がありますが、このうち中国の長春市とは2010年に友好都市締結30周年を迎えました。

ここではクレアの「平成22年度地域国際化施策支援特別対策事業」を活用して実施した「仙台市・長春市友好都市締結30周年記念事業」についてご紹介したいと思います。

**事業テーマ「絆」**

1980年10月に国際友好都市提携を結んだ本市と長春市は、これまで30年という長い期間、相互の公式訪問をはじめ、市民交流や文化・スポーツ交流など、様々な交流事業を通じて友好関係を築いてきました。そして2010年に提携30周年を迎えることから、本市と長春市の「遙かなる絆」をテーマとして、これまでの交流の歴史を改めて振り返り、今後の更なる交流の促進、友好の「絆」を築くため、記念事業を実施することとしました。

**写真展の相互開催**

本市においては仙台市博物館1階ギャラリーを会場に「長春写真展」を開催しました。長春市の名所旧跡をはじめ、長春市の今の姿を写し出した約90点の写真と、長春市から贈呈された絵画などの贈答品の展示により、両市のこれまでの「絆」や長春市の魅力を市民に広く紹介することができました。

長春市においては長春図書館の1階大ホールと2階展示センターを会場に「仙台写真展」が開催され、開幕式に合わせて本市の奥山恵美子市長が長春市を訪問しました。相互交流の記録など30年間の交流に関する写真や、本市から提供した仙台の名所旧跡、名産品、まつり、仙台市民の生活等

に関する資料のほか、本市にある現在の東北大学で学んだ魯迅関係の資料など、計約150点の写真などが展示されました。

**本市への招へい事業****～中国・長春伝統芸能ステージの開催**

長春市から本市に招へいた文化訪問団（二胡など伝統楽器の演奏者、京劇雑技の俳優及び舞踊家）による伝統芸能ステージを開催したほか、訪問団による学校訪問を実施しました。本事業は、音楽演奏会事業と京劇文化セミナー事業を一体化する形で実施し、中国・長春の素晴らしい伝統文化を体験する貴重な機会や、中国と市民自らの「絆」作りの機会を多くの市民に提供することができたほか、訪問先の学校では京劇の俳優が生徒達に京劇の基礎や動き等を直接解説・指導するなど、生徒達に中国文化を身近に感じる機会、中国との「絆」作りの機会を提供しました。音楽演奏会では、中国の奏者と市内の留学生等のコラボレーションによる曲も演奏し、両者による新たな「絆」も生まれました。



小学校での伝統芸能公演

**長春市への訪問事業****～長春市民との懇談会、旅行関係者との意見交換会**

仙台写真展の会場となった長春図書館の5階に

仙台市の常設PRコーナーが開設され(中国名:「仙台角」)、この仙台コーナーの開設記念行事として、日本語を学ぶ中国人大学生5名と奥山市長が約45分間にわたり懇談しました。奥山市長からは、日本語を学ぶきっかけや日本について一番興味のあること、日中におけるビジネススタイルの違い、将来の目標などについて学生に質問したほか、学生から奥山市長へもたくさんの質問が出ました。懇談は非常に和やかな雰囲気の中で行われ、学生たちは緊張しつつも、積極的に発言していました。

また、ここ数年来の長春市の経済発展や、2010年7月から中国人の訪日個人観光ビザが中国全域で取得可能となり、長春市民も新たに対象に加わったことを受け、観光分野での人的交流拡大を目的とした旅行関係者との意見交換会が行われました。本市が長春市でこのようなプロモーションを行うのは初めてで、奥山市長自らが仙台の魅力、観光資源等についてプレゼンテーションを行いました。PRの中では本市と魯迅との縁についても触れ、DVD「魯迅と仙台」の放映も行いました。



旅行関係者との意見交換会

## 事業の成果

30周年記念事業の実施により、多くの市民に本市と長春市の交流の歴史や、両市の文化や現在の状況などについて周知し、理解を深め合うことができました。

写真展のアンケート結果や実際に来場した市民からは、「発展した近代的な街の姿に驚き、これまで持っていた長春のイメージが変わった」「長春に行ってみたくと思った」という感想や、「仙台市と長春市の友好都市関係をはじめて知った」というコメントが寄せられ、中国や長春市への興味を喚起し、国際理解、異文化理解の良い機会を提供することが

できました。また、イベント開催にあたりご協力いただいた在仙留学生や関係機関との連携も図ることができ、今後の交流事業の実施にあたって協力関係を築くことができたほか、長春市政府との信頼関係もより一層強固なものとすることができました。

訪問事業では、旅行関係者との意見交換会を通じて、仙台という名前は魯迅の関係で知名度は高いものの、旅行関係者でさえも仙台にどのような観光資源があるかについてはほとんど知られていない実態が判明しました。一方、意見交換後には旅游局長から、観光関係者を集めた調査視察団を本市に派遣するといった宣言も出るなど、参加者は仙台について興味を持った様子でしたが、その背景には、両市の友好都市関係という「絆」が大きかったと思われます。

## 東日本大震災の影響

2011年3月11日に発生した東日本大震災の際には、世界中からたくさんの支援を頂きました。長春市からもお見舞いのレターや多額の義援金のほか、支援物資がまだ十分ではなかった3月18日に飲料水10トン(500mlペットボトル×1万9,200本、段ボール800箱)が届けられ、被災者たちののどを潤しました。これらの多大な支援も、長年築き上げた両市の「絆」があったからこそだと思われます。

仙台空港の中国路線が復活していない影響もあり、現地で行った観光プロモーションが成果を挙げるにはまだ時間がかかりそうですが、東北の被災地に元気を取り戻すためにも、国内外からの仙台への集客を増やす努力を続けなければなりません。

今後もクレアの各種施策を活用しながら、復興PRに取り組んでいきたいと思えます。



長春市からの支援物資